
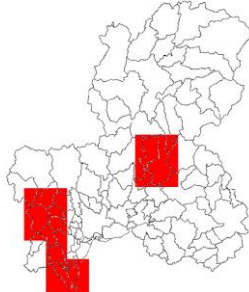


ムカゴツヅリ		<i>Poa tuberifera</i> Faurie ex Hack.	絶滅危惧Ⅱ類
			イネ科
選定理由	多湿な森林環境の減少などにより、生育地の減少が著しい。もともと生育地も個体数も少ないうえに、生育環境が悪化している。		写真(岐阜県博物館) 標本 
形態の特徴	根茎はない。稈の基部は2-3節ふくれて球茎状になる。稈は直立し、高さ20-40cm。葉身は長さ5-15cm、幅2-4mm。花序は長さ5-10cm、小穂は2-4小花からなり、長さ5-6mm。		
生態的特徴	イネ科の多年草。花期は4-6月。深山の多湿な落葉広葉樹林の林床に生育する。ときに岩上にも生育する。ヤマトボシガラと同じような環境、美濃帯の古生層の分布する地域に本種は生育しているようである。		
分布状況	日本固有種で、本州から九州に分布する。岐阜県では、県中部や県南西部に稀に見られる。		
減少要因	林道拡張などによる環境の改変。花が小さく地味であるため、存在自体が認識されないまま、森林の伐採などによって自生地が失われている可能性がある。		
保全対策	自然度の高い森林環境の維持など。道路拡張などによる環境の改変は本種の保全に大きな脅威となる。		
特記事項			
参考文献	原色日本植物図鑑・草本編Ⅲ 保育社 1964 日本の野生植物草本Ⅰ 単子葉類 平凡社 1982 増補日本イネ科植物図譜 平凡社 1993		

文責:福岡義洋